

主催：日本ソルフェージュ研究協議会

# 第13回 研究発表会

Web 配信

収録会場：東京音楽大学 池袋キャンパス A200 室

期間：

2021年11月29日(月)12:00~12月28日(火)12:00まで



善養寺 彩代 Sayo ZENYOJI

埼玉県立芸術総合高校（音楽科ピアノ専攻）卒業。東京藝術大学作曲科卒業、同大学院音楽研究科音楽文化専攻（ソルフェージュ研究分野）卒業。2016年遠藤千晶氏のリサイタルにおいて、箏コンチェルト作品が日本フィルハーモニー交響楽団によって初演される。邦楽やクラシック音楽の作編曲活動の他、舞台や映像作品への音楽提供などジャンルを問わず行っている。またピアニストとして室内楽の伴奏、オーケストラでの演奏及び新作初演にも多く携わり、多岐にわたって活動中。

## ◆箏曲演奏家を対象とした音程感覚の教授法についての一考察

—短2度音程を中心に—

本研究は、自国の伝統音楽を専門分野としながら、同時に五線譜の読解力も求められる現状にある箏曲演奏家に対し、音程感覚育成の為に有効的なソルフェージュ教育法についての考察である。明治期以降、邦楽の近代化をはかる社会的背景や教育法の変化、そして箏の楽譜の機能性、この3つの観点から、箏曲演奏家に対して西洋音楽の文脈で生まれたソルフェージュ教育を行うことの意義について再考し、その上で、山田流箏曲の初学者を対象に、音程感覚における問題点について調査、その結果を元に、音程感覚育成における有効的なソルフェージュ教育法について提案をする。



岡本 庸子 Yoko OKAMOTO

県立水戸第三高等学校音楽科を経て、東京音楽大学を卒業。ピアノを遠藤道子、瀬戸堯子、佐藤篤、中島和彦、海老原直美の各氏に、伴奏法を浅井道子に師事。県立高等学校教諭として、現磯原郷英高等学校、日立第二高等学校、水戸第三高等学校に勤務したのち、現在、取手松陽高等学校に勤務。音楽科設置の2校では、ピアノ実技、ソルフェージュ、演奏研究の授業を担当。

## ◆演奏研究の授業の実践例

高等学校の音楽科課程におけるカリキュラムの中で行われる専門教育では、学校内の試験や大学入学試験を意識するあまり、音楽そのものを自然な感覚で素直に捉えさせることをおろそかにしているように感じることがある。生徒にとって音楽を主体的かつ直感的に感じ、さらに、感じたことを表現できるようにすることは大変重要であると考えられる。発表者は、高等学校の音楽科課程において、生徒が譜面を自発的に解釈し音楽の諸要素を感じる力を養うことに注力した演奏研究の授業を展開している。本発表ではこの演奏研究の授業例について紹介する。

視聴は以下の会員ログインの URL もしくは右下の QR コードからお入りください。

<http://www.ni-sol-ken.com/member/auth.php>

会員ログイン用 QR コード



### ●問い合わせ先

日本ソルフェージュ研究協議会事務局

Tel. 090-5566-8567 (留守番電話)

E-mail : [ni.sol.ken@gmail.com](mailto:ni.sol.ken@gmail.com)

<http://www.ni-sol-ken.com/index.html>

Homepage



facebook

